

川崎市市民ミュージアム 2019年7～9月の企画展

妖怪／ヒト ファンタジーからリアルへ

妖怪
ヒト

ファンタジー
からリアルへ



川崎市市民ミュージアム 企画展示室2
 2019年7月6日[土]—9月23日[月・祝]
 開館時間 9:30～17:00 (入場は閉館の30分前まで)
 ※夏休み期間の土曜日(7.20|27|8.3|10|17)は19:00まで開館延長(入場は閉館の30分前まで)
 休館日 毎週月曜日(ただし7.15|8.12|9.16|9.23は開館)|7.16[火]|8.13[火]|9.17[火]
 観覧料 一般200(160)円|65歳以上・大高生150(120)円|中学生以下無料
 ※()内は20名以上の団体料金 ※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料
 主催 川崎市市民ミュージアム

2019年7月6日(土)～9月23日(月・祝)
川崎市市民ミュージアム 企画展示室2

展示概要

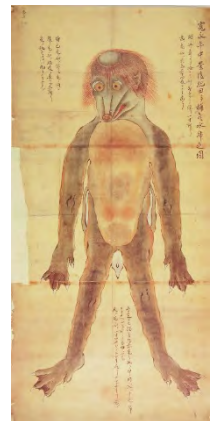
妖怪は、古代から科学では説明できない現象を引き起こし、人々に恐れられてきた存在です。不可思議な現象だけでなく異形の存在もまた、妖怪になぞらえて伝えられています。長らく人智を超えた存在として認識されてきた妖怪ですが、江戸時代以降は、鳥山石燕^{とりやませきえん}による『画図百鬼夜行』に代表される出版物を通して、時にユーモラスな存在として人々に親しまれてきました。一方で、近代を迎え科学技術が発達すると、妖怪のような目に見えない存在よりも、人間そのものによって生みだされる欲望や恐怖が浮き彫りになっていきます。明治時代には、日清戦争・日露戦争という二度の対外戦争によって、人間による所業の恐ろしさが強調されていきました。

本展では、近世から近代にかけて人々が抱いた恐怖や畏怖の対象が、妖怪から人間——ファンタジー＜異界＞からリアル＜現実＞になっていく様子を、「妖怪」と「ヒト」の境界線に注目し、市民ミュージアムの多様な収蔵品約100点から辿ります。

展示構成

第1章 怖い？面白い？妖怪たち

「妖怪」は、超自然的存在として不可思議な現象を引き起こしたり、人間に恐怖や不安を与えたりするものとして知られています。また、同時に自然や身近なものに宿る神秘的な存在として、人々に親しまれてきました。近世では一般的に「化物」^{ばけもの}と呼ばれ、人間に恐怖や不安を与えたり、時には幸運など様々な恩恵を与えたりする存在として多種多様な妖怪たちが生み出されました。出版文化が栄えた江戸時代には、安永5（1776）年に鳥山石燕『画図百鬼夜行』が刊行され、妖怪の姿は次第に定型化されていきます。怖さとユーモラスさを合わせ持つキャラクターに近い存在として、人々の間で怖いもの、畏れ多いものとして親しまれてきた妖怪の数々をご紹介します。



《寛永年中豊後肥田ニテ捕候水虎之図》
江戸時代

第2章 妖怪とヒトの境界線

時に、妖怪は人間を化かすものや懲らしめるものとして人々の前に現れます。その特性は、地獄絵巻に出てくる鬼の姿や、江戸や明治時代の浮世絵の中で、社会を風刺する姿として妖怪が登場することからも窺えるでしょう。また、死者の世界に住む存在として「幽霊」や「骸骨」なども、人間の姿を一部残したものとして登場します。人間と妖怪の間に位置する存在の特徴から、「妖怪」と「ヒト」の境界を探ります。



鳥山石燕『画図百鬼夜行』
1776（安永5）年 紙本木版墨摺

第3章 ヒトの怖さ

長らく人々の不安や恐怖の対象、または自然の一部として捉えられてきた妖怪は、近代を迎えると学問領域の一つになっていきます。また、科学技術が発達するにつれ不可思議な自然現象が解明されると、対照的に殺人や戦争によって、人間の内面や人間そのものの怖さが強調されていきました。明治時代には、明治27（1894）年に日清戦争が勃発し、その10年後には日露戦争が始まります。激動の時代を記録する戦争錦絵を中心に、「ヒト」の怖さを辿ります。



小林清親『第二軍旅順口攻撃之圖』
1894（明治27）年 大判錦絵三枚続

見どころ

- ① 鳥山石燕『画図百鬼夜行』をはじめとする、市民ミュージアムの妖怪関連資料を一堂に展示！
- ② 戦争錦絵を中心に、日清・日露戦争関連作品を展示！
- ③ 怪談作家・木原浩勝^{きはらひろかつ}氏所蔵の妖怪『件』^{くだん}のミイラを特別出品！

関連イベント

○ 木原浩勝 怪談トークショー

『新耳袋』著者として知られる、木原浩勝氏による怪談会です。

講師：木原浩勝（怪談作家・怪異蒐集家）

日時：8月11日（日）14：00～15：30

会場：1F 映像ホール／定員：270名／要観覧券／

当日先着順 ※開場は30分前

○ 妖怪影絵巻

自分の影を映像としてとらえたアニメーションを描く映像体験ワークショップです。

講師：松本力（^{まつもとちから}絵かき、映像・アニメーション作家）

日時：9月7日（土）13：00～16：30

会場：3F 体験学習室／料金：500円（材料・保険料込）／

定員：10組20名／対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）／

事前申込制（抽選）

申込期間：7月23日（火）～8月22日（木）

○ 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無に関わらず、参加者同士ことばを交わしながら、一緒に作品を鑑賞します。

日時：9月22日（日）13：00～15：00

会場：2F 企画展示室2／料金：500円／要観覧券／定員：7名／

事前申込制（抽選）

申込期間：8月13日（火）～9月13日（金）

○ 日本映画傑作選 怪談特集

①『番町皿屋敷 お菊と播磨』

（大映／1954年／92分／モノクロ／監督：伊藤大輔）

②『怪猫 謎の三味線』

（新興キネマ／1938年／73分／モノクロ／監督：牛原虚彦）

日時：7月17日（水）、24日（水）、31日（水）／

各日①10：30～、②14：00～

会場：3F ミニホール／料金：無料／定員：各日40名／当日先着順

○ ベビーカーツアー

日時：8月1日（木）14：00～

会場：2F 企画展示室2／定員：6組／対象：0歳～未就学児とその保護者／

要観覧券／事前申込制（抽選）

申込期間：6月23日（日）～7月23日（火）

○ 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：7月13日（土）、8月17日（土）、31日（土）各日14：00～／

8月3日（土）17：00～ ※開館時間延長のため

会場：2F 企画展示室2／要観覧券／当日直接会場へ



月岡芳年《百器夜行》
1865（慶応元）年 大判錦絵二枚続



歌川芳藤《髪切の奇談》
1868（明治元）年 大判錦絵二枚続



三代歌川豊国
《江戸廻花名勝會 五番組 く 四ッ谷》
1863（文久3）年 大判錦絵

開催概要



- 展覧会名 妖怪／ヒト ファンタジーからリアルへ
- 会 期 2019年7月6日(土)～9月23日(月・祝)
- 休 館 日 毎週月曜日(ただし7月15日、8月12日、9月16日、9月23日は開館)、7月16日(火)、8月13日(火)、9月17日(火)
- 開館時間 9:30～17:00(入場は閉館の30分前まで)
※夏休み期間の土曜日(7月20日・27日・8月3日・10日・17日)は19:00まで開館延長(入場は閉館の30分前まで)
- 会 場 川崎市市民ミュージアム 企画展示室2
- 観 覧 料 一般200(160)円、65歳以上・大高生150(120)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金。 ※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料。
- 主 催 川崎市市民ミュージアム

＜川崎市市民ミュージアム 施設概要＞

多彩な表情を持つ都市、川崎。川崎市市民ミュージアムは、「都市と人間」という基本テーマを掲げて1988年11月に開館した、博物館と美術館の複合文化施設です。

★川崎市市民ミュージアムは、都市・川崎の歩みを示す歴史資料をはじめ、時代性や社会動向を敏感に反映する大衆芸術、複製技術芸術(漫画・写真・版画・ポスター・映像など)を、日本で初めて総合的にコレクションする館として、開館当時には国内外から大きな注目を集めました。現在もその収蔵品数は全国最大級となる約26万点を誇ります。



■住所／〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)

■開館時間／9:30～17:00(入場は閉館の30分前まで)

※夏休み期間の土曜日(7月20日・27日・8月3日・10日・17日)は19:00まで(入場は閉館の30分前まで)

■休館日／月曜日(休日の場合は開館)、祝日の翌日(土日の場合は開館)、年末年始

■料金／入館・博物館展示室は無料。企画展、アートギャラリー展は展覧会によって異なる。

※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は企画展観覧無料。

※20名以上の団体でご利用いただく場合、割引有。

■アクセス／JR・東急「武蔵小杉」駅北口1番乗り場からバスで約10分「市民ミュージアム前」下車すぐ

広報用画像

画像の使用を希望される方は、川崎市市民ミュージアム広報担当宛にご連絡ください。

■素材使用に関して

- ・今回ご提供する素材の使用は、本展覧会を紹介していただける場合に限ります。展覧会終了後の使用は一切できません。
- ・本プレスリリース内にある画像素材は全てご提供可能です。お気軽に広報担当宛にご連絡ください。
- ・トリミング・切り抜きなど画像の加工は不可とさせていただきます。また、キャプション等の文字が画像に被らないようにご配慮ください。
- ・画像を使用する際は、各画像のキャプションと、所蔵先を必ずご記載ください。

例：《寛永年中豊後肥田ニテ捕候水虎之図》江戸時代 川崎市市民ミュージアム蔵

- ・記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載紙（誌）を1部当館広報宛にご送付ください。

■展覧会メインビジュアルについて（横・縦）

下記画像を使用する際は、クレジット明記は必須ではありません。



広報用画像一覧



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

- 1 月岡芳年《新形三十六怪撰 葛の葉きつね童子にわかるるの図》1890（明治23）年 大判錦絵
- 2 鳥山石燕『画図百鬼夜行』1776（安永5）年 紙本木版墨摺
- 3 小林清親《第二軍旅順口攻撃之圖》1894（明治27）年 大判錦絵三枚続
- 4 小林清親《平壤攻撃電氣使用之圖》1894（明治27）年 大判錦絵三枚続
- 5 歌川国芳《源頼光公館土蜘蛛作妖怪図》1843（天保14）年頃 大判錦絵三枚続
- 6 河鍋暁斎《龍宮魚勝戦》1868（明治元）年 大判錦絵三枚続
- 7 《寛永年中豊後肥田ニテ捕候水虎之図》江戸時代
- 8 三代歌川豊国《江戸廻花名勝會 五番組 く 四ッ谷》1863（文久3）年 大判錦絵
- 9 歌川芳藤《髪切の奇談》1868（明治元）年 大判錦絵二枚続
- 10 月岡芳年《百器夜行》1865（慶応元）年 大判錦絵二枚続

すべて川崎市市民ミュージアム蔵

【プレスリリースお問い合わせ】川崎市市民ミュージアム 営業・広報担当 滝口

TEL: 044-754-4500（休館日を除く 9:30~17:00） FAX: 044-754-4533

MAIL: pr_kcm@kawasaki-museum.com

HP: <http://www.kawasaki-museum.jp/> * 指定管理者: アクティオ・東急コミュニティー共同事業体